

名古屋大学全学教育科目規程

(趣旨)

第1条 この規程は、名古屋大学通則（平成16年度通則第1号。以下「通則」という。）第19条第7項、第20条第2項、第21条第6項並びに第23条の2第1項及び第3項の規定に基づき、名古屋大学全学教育科目（以下「全学教育科目」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(科目区分及び内容)

第2条 全学教育科目の科目区分及び内容は、次のとおりとする。

科目区分		内容
基礎科目	全学基礎科目	学問の体系や構造を認識させ、専門教育へ接続させるとともに、自主的判断能力を養う科目
	基礎セミナー	少人数のセミナー形式による多面的な知的トレーニングを行い、コンベンシクとしての読み、書き、話す能力のかん養を図るとともに、真理探究の方法と面白さを学ばせ、大学生に必要な自立して学習する能力を育成する科目
	言語文化	外国語の能力を高め、異文化理解を深めて、国際社会に相応しい教養を身に付けさせる科目
	健康・スポーツ科学	健康に関する自己管理能力、生涯スポーツの基礎となる技能の習得、スポーツを通じたコミュニケーション能力やリーダーシップの育成を目標とする科目
	文系基礎科目	人文・社会科学系分野の基礎となる科目を設定し、それぞれの分野における学問体系を認識させるとともに、自主的判断能力を養成する科目
	理系基礎科目	自然科学系分野の基礎となる科目を設定し、それぞれの分野における学問体系を認識させるとともに、自主的判断能力を養成する科目
教養科目	文系教養科目	人文・社会科学系分野の諸現象について、主題を設定し、それらの諸現象を学際的、総合的に分析、把握する能力をかん養するとともに、他の学問分野との関連性についても理解させる科目
	理系教養科目	自然科学系分野の諸現象について、主題を設定し、それらの諸現象を学際的、総合的に分析、把握する能力をかん養するとともに、他の学問分野との関連性についても理解させる科目
	全学教養科目	専門分野を問わず、豊かな人間性を育み、総合的判断能力のかん養をめざす科目
	開放科目	学生の自主的で多様な学習意欲に応えるため、学部等が開講する専門系授業科目のうち、他学部の学生の受講が可能であり、かつ、有意義であると認めたものを指定して開放する科目

(授業科目及び単位数)

第3条 全学教育科目の授業科目、単位数等は、別表のとおりとする。

- 2 全学教育科目の授業科目は、前項に規定するもののほか、臨時に開設することができる。
- 3 前項の授業科目、単位数等は、開設の都度、別に定める。

(単位の計算)

第4条 全学教育科目の授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

- 一 講義及び演習は、15時間から30時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とする。
- 二 実験及び実習は、30時間から45時間までの範囲で定める時間の授業をもって1単位とする。

(履修年次)

第5条 全学教育科目の履修年次は、学部において定める。

(履修要件)

第6条 全学教育科目の履修要件は、学部規程の定めるところによる。

(履修手続)

第7条 学生は、毎学期、指定の期日までに履修しようとする授業科目について、授業担当教員の承認を得て、所属の学部長に届け出なければならない。

(単位の認定)

第8条 授業科目の履修に係る単位の認定は、学期末試験、追試験及び再試験等（以下「試験等」という。）によるもののほか、総合的に成績評価し、合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 実験及び実習については、前項の規定にかかわらず、平常の成績をもって成績評価することができる。
- 3 試験等を受けることのできる授業科目は、前条の規定による手続を経て授業を受けたものに限る。

(追試験)

第9条 学期末試験を受けることのできなかつた者は、やむを得ない理由がある場合に限り、追試験を受けることができる。

2 追試験を受けようとする者は、学期末試験終了後、指定の期日までに、所定の願書に次の書類を添え、教養教育院長に願い出て、その許可を受けなければならない。

- 一 傷病により学期末試験を受けることのできなかつた者は、医師の診断書
- 二 その他やむを得ない理由により学期末試験を受けることのできなかつた者は、その証明書

(再試験)

第10条 学期末試験又は追試験を受け不合格となった授業科目のある者は、教養教育院が別に定めるところにより、当該授業科目について再試験を受けることができる。

~~2 再試験を受けようとする者は、指定の期日までに、所定の願書により教養教育院長に願い出て、その許可~~

~~を受けなければならない。~~

32 再試験の成績評価は、C-又はFとする。ただし、この区分により難しいものについては、P又はNPとする。

(成績評価)

第11条 成績評価は、名古屋大学における成績評価及びGPA制度に関する規程（令和元年度規程第68号）の定めるところによる。

(開放科目の取扱い)

第12条 第2条に規定する開放科目は、学部等が開講する専門系科目のうち、教育分科会が適当と認める授業科目とする。

2 学生は、前項の授業科目を履修しようとする場合には、所属の学部長を経て、当該授業科目を開講する学部長等に届け出なければならない。

(検定試験の成績の取扱い)

第13条 通則第23条の2の規定に基づく検定試験は、次のとおりとする。

- 一 実用英語技能検定
- 二 技術英語能力検定
- 三 国際連合公用語英語検定試験
- 四 Test of English as a Foreign Language
- 五 Test of English for International Communication
- 六 ケンブリッジ大学英語能力検定試験
- 七 International English Language Testing System
- 八 ゲーテ・ドイツ語検定試験
- 九 ドイツ語技能検定試験
- 十 DELF
- 十一 実用フランス語技能検定試験
- 十二 ロシア語検定試験
- 十三 ロシア語能力検定試験
- 十四 中国語検定試験
- 十五 漢語水平考試（HSK）
- 十六 DELE
- 十七 スペイン語技能検定
- 十八 韓国語能力試験
- 十九 「ハングル」能力検定試験
- 二十 日本語能力試験

2 前項の単位の認定は、本学の単位認定審査に合格した者に行う。ただし、前項第8号から第19号までに規定する検定試験については、国際プログラム群により受け入れられた学生以外の学生を対象とし、前項第20号に規定する検定試験については、国際プログラム群により受け入れられた学生のみを対象とする。

3 第 1 項の検定試験により与えることのできる認定可能単位数及び認定対象授業科目は、次のとおりとする。

検定試験の種類	レベル・級位	言語文化「英語」	
		認定可能 単位数	認定対象授業科目
実用英語技能検定 技術英語能力検定 国際連合公用語英語検定試験 Test of English as a Foreign Language TOEFL iBT テスト (TOEFL Internet-based Test) を 受験した者 Test of English for International Communication Listening & Reading Test を受験した者 ケンブリッジ大学英語能力検定試験 International English Language Testing System	1 級 プロフェッショナル 特 A 級, A 級 88 点以上 787 点以上 CPE, CAE 7.0 以上	2 単位	英語 (基礎) 英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)

検定試験の種類	レベル・級位	言語文化「ドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語及び朝鮮・韓国語」	
		認定可能 単位数	認定対象授業科目
ゲーテ・ドイツ語検定試験 ドイツ語技能検定試験 DELF 実用フランス語技能検定試験 ロシア語検定試験 ロシア語能力検定試験 中国語検定試験 漢語水平考試 (HSK)	A1 A2, B1~C2 4 級 3 級~1 級 DELF A1 DELF A2, B1~ C2 3 級 準 2 級~1 級 入門レベル 基礎レベル, 第 1~第 4 レベル 4 級 3 級~1 級 4 級 3 級~1 級 4 級 5 級~6 級	3 単位 6 単位 3 単位 6 単位 3 単位 6 単位 3 単位 6 単位 3 単位 6 単位 3 単位 6 単位 3 単位 6 単位 3 単位 6 単位	ドイツ語 1~4 ドイツ語 1~4 ドイツ語 1~4 ドイツ語 1~4 フランス語 1~4 フランス語 1~4 フランス語 1~4 フランス語 1~4 ロシア語 1~4 ロシア語 1~4 ロシア語 1~4 ロシア語 1~4 中国語 1~4 中国語 1~4 中国語 1~4 中国語 1~4

DELE	DELE A1	3 単位	スペイン語 1～4
	DELE A2, B1 ～ C2	6 単位	スペイン語 1～4
スペイン語技能検定	5 級	3 単位	スペイン語 1～4
	4 級～1 級	6 単位	スペイン語 1～4
韓国語能力試験	2 級	3 単位	朝鮮・韓国語 1～4
	3 級～6 級	6 単位	朝鮮・韓国語 1～4
「ハングル」能力検定試験	4 級	3 単位	朝鮮・韓国語 1～4
	3 級～1 級	6 単位	朝鮮・韓国語 1～4

検定試験の種類	レベル	言語文化「日本語」	
		認定可能 単位数	認定対象授業科目
日本語能力試験	N3 レベル	3 単位	総合日本語 1～2
	N1, N2 レベル	6 単位	総合日本語 1～2 日本語セミナー1 ～2

(雑則)

第14条 この規程に定めるもののほか、全学教育科目に関し必要な事項は、教育分科会の議を経て、総長が定める。

区分	授業科目	単位	備考
文系基礎科目	哲学	2	
	歴史学	2	
	文学	2	
	地理学	2	
	社会学	2	
	心理学Ⅰ	2	
	心理学Ⅱ	2	
	教育学	2	
	日本国憲法	2	
	法学	2	
	政治学	2	
	経済学 A	2	
	経済学 B	2	
	経営学	2	
	国際関係論	2	
	国際開発学	2	
	比較文化論	2	
	比較教育論	2	
	統計学	2	
	基礎科目	微分積分学Ⅰ	2
微分積分学Ⅱ		2	情報学部 理学部 工学部 農学部対象
線形代数学Ⅰ		2	情報学部 理学部 工学部 農学部対象
線形代数学Ⅱ		2	情報学部 理学部 工学部 農学部対象
複素関数論		2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科, 理学部, 工学部対象
数学通論Ⅰ		2	医学部対象
数学通論Ⅱ		2	医学部対象
数学入門		2	文系学部対象
力学Ⅰ		2	工学部対象
力学Ⅱ		2	工学部対象
電磁気学Ⅰ		2	理学部物理学科を志望する学生及び工学部対象
電磁気学Ⅱ		2	理学部物理学科を志望する学生及び工学部対象
物理学基礎Ⅰ		2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科, 理学部, 医学部, 農学部対象
物理学基礎Ⅱ		2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科, 理学部(物理学科を志望する学生を除く。), 医学部, 農学部対象
物理学実験		1.5	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科, 理学部, 医学部, 農学部対象
物理学入門		2	文系学部対象
化学基礎Ⅰ		2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科, 理学部, 医学部, 工学部, 農学部対象
化学基礎Ⅱ		2	情報学部自然情報学科, 理学部, 医学部, 工学部, 農学部対象
化学実験		1.5	情報学部自然情報学科, 理学部, 医学部, 工学部, 農学部対象
化学入門		2	文系学部対象
生物学基礎Ⅰ		2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科, 理学部, 医学部, 農学部対象
生物学基礎Ⅱ		2	情報学部自然情報学科, 理学部, 医学部, 農学部対象
生物学実験		1.5	情報学部自然情報学科, 理学部, 医学部, 保健学科, 農学部対象
生物学入門		2	文系学部対象
地球科学基礎Ⅰ		2	情報学部自然情報学科・コンピュータ科学科, 理学部, 農学部対象
地球科学基礎Ⅱ		2	情報学部自然情報学科, 理学部, 農学部対象
地球科学実験		1.5	情報学部自然情報学科, 理学部, 農学部対象
地球科学入門	2	文系学部対象	
情報リテラシー(文系)	2	文系学部対象	
数学特別講義		ただし、当該科目は任意科目の単位として扱い、卒業に必要な単位で認定しない。	

		授 業 科 目	単 位	備 考		
教 養 科 目	文 系 教 養 科 目	生と死の人間学	2			
		現代社会の思想的課題	2			
		科学・技術の哲学	2			
		ことばの不思議	2			
		文化を読む	2			
		表象と文化	2			
		芸術と人間	2			
		社会変動と人間生活	2			
		人間と行動	2			
		現代社会と教育	2			
		教育と発達心理学	2			
		現代社会と法	2			
		民主主義の歴史と現在	2			
		市場経済と社会	2			
		産業社会と企業	2			
		金融と生活	2			
		グローバル化時代の国際社会	2			
		開発の光と影	2			
		人間と環境	2			
		社会と環境	2			
		研究方法論	2			
		比較報道・放送論	2			
		グローバル化と国際教育交流	2			
		映像とメディア・リテラシー	2			
		教 養 科 目	理 系 教 養 科 目	図情報とコンピュータ	2	
				情報メディアとコミュニケーション	2	
				システム工学入門	2	
情報リテラシー(理系)	2					
情報科学入門	2					
現代数学への流れ	2					
先端材料と物性物理	2					
エレクトロニクスと物性科学	2					
物理現象の科学	2					
原子・分子の科学	2					
物質世界の認識	2					
物質と材料の科学	2					
物質と科学	2					
現代の生命科学	2					
現代医療と生命科学	2					
生涯健康と医学	2					
健康増進科学	2					
遺伝子の世界	2					
食と農の科学	2					
動植物の科学	2					
微生物の科学	2					
バイオテクノロジー	2					
地球惑星の科学	2					
自然環境と人間	2					
エネルギーと環境	2					
自然環境と人間社会	2					
環境問題と人間	2					
都市と環境	2					
大気水圏環境の科学	2					
宇宙科学	2					
博物館概論	2					

区 分	授 業 科 目	単 位	備 考
全学教養科目	現代芸術論	2	
	芸術と人間精神	2	
全学教養科目	表象芸術論	2	
	音楽芸術論	2	
全学教養科目	科学・技術の倫理	2	
	科学技術史	2	
全学教養科目	科学技術社会論	2	
	科学技術とジェンダー	2	
全学教養科目	宗教と人類文化	2	
	異文化論	2	
全学教養科目	ビッグバンから現代社会まで	2	
	留学生と日本	2	
全学教養科目	名大の歴史をたどる	2	
	大学でどう学ぶか	2	
全学教養科目	キャリア形成論	2	
	学問の面白さを知る	2	
全学教養科目	大学における環境と安全	2	
	切迫する自然災害に備える	2	
全学教養科目	アーカイブズ学入門-文書史料の世界をあるく-	2	
	人間関係とコミュニケーション	2	
全学教養科目	ジェンダーの視点から考える21世紀の日本社会	2	
	ピア・カウンセリング	2	
全学教養科目	特別講義		
	学部等の専門系科目のうち教育分科会が適 当と認めた授業科目		
開放科目			

(注) 理系基礎科目の数学特別講義及び全学教養科目の特別講義に係る授業科目，単位数等及び開放科目の学部等の専門系科目に係る授業科目は，教育分科会が別に定める。